

新年明けましておめでとうございます。  
今年もどうぞ宜しくお願い致します。

ところで今年の干支は申（猿）。甲骨文字では申は稲妻の形をしており、右と左に光が屈折している形でしたが、「てん文」ではこれを縦線の横に並べて申の字になりました。また稲妻は天にある神がその威光を表したもので、神の発する物であるから「かみ」の意味になり申は神のもとの字だそうです。稲妻は屈折しながら斜めに走るの「のびる」の意味になり、「かさねる、もうす」の意味に用いられます。

申は斜めに走る草木が伸びきり、果実が成熟して固まっていく状態を表しているとされています。後に覚えやすくするために動物の猿が割り当てられたそうです（ここまで常用字解：白川静より）。

猿というと「見ざる、聴かざる、言わざる」が良く知られていますが、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」は猿とは無関係ですが「ヨクミキキシワカリ、ソシテワスレズ」を思い出します。猿まねも時に必要ですが、できれば **original** で。

さて今年には NPO 法人天かけるが設立されて満 5 年です。5 年経れば少しは形になっているだろうと始めた地域包括ケア ICT システムも、干支の申の状態に近いと見なされれば嬉しいのですが、どうでしょうか。今年も初年度からの医療介護連携が主な事業の一つです。

医療介護の領域では高齢社会対策として昨年報酬改定が行われ、向かい風となっています。身を縮めて向かい風をやり過ごすのではなく、ヨットの操縦のように風を活かし稲妻のごとくタックを繰り返して前進したいものです。

住み慣れた街で安心して暮らし続けることが出来るような地域包括ケアシステム構築は全国一律の仕組みではなく、その地域の特性にあったものを創るようと言われています。しかしある程度出来上がれば標準化が問われます。天かける地域包括ケア ICT システムがその範となればと考えています。

今後とも多方面からのご支援、ご協力の程お願い申し上げます。

理事長 伊藤勝陽